令和６年　夏号

衆議院議員葉梨康弘は早朝駅立ちを続けるなど
皆さんの声を直接お聞きしてきました
これからの数年間
葉梨康弘が準備してきたプロジェクトが具体化していきます
皆さん、葉梨康弘とともに茨城県南（茨城３区）の
未来を構想していきませんか？

つくばエクスプレスの輸送力増強に尽力
つくば・守谷・東京・豊洲・羽田を結ぶ構想

平成 17 年開業の**つくばエクスプレス**（ＴＸ）は、沿線発展のため、利便性と輸送力向上が重要課題です。

葉梨康弘は、**ＴＸ議連会長**として、**令和元年、８両編成化事業（現在６両）の実施を主導**しました。（現在工事中）

葉梨は、さらに、現在秋葉原止まりのＴＸを**令和 22 年完成を目指す東京臨海地下鉄（東京駅と豊洲市場を結び、羽田空港への延伸も検討）と接続**させるため、国交省や関係自治体との協議を進めています。

この構想を実現させれば、**つくば～守谷～東京駅～豊洲市場～羽田空港の一大ネットワーク**が形成され、さらなる定住・交流人口の増加も見込まれます。

取手市桑原にＴＤＬの 1.3 倍、
日本最大のショッピングテーマパーク
交流人口と雇用を増大

国道６号沿線の取手市桑原地区には、米価が低迷した平成後半以降、大型商業施設の構想が複数提起されましたが、優良農地の転用が難しく、実現できませんでした。

葉梨康弘の示唆により、取手市が、**都市計画の変更で計画を進める**こととなり、区画整理準備組合設立の後、イオンの進出を前提に、**令和５年、関東農政局との協議が始まり、葉梨が農水省に早期の協議を要請、本年協議が整いました**。都市計画区域への編入の後、地盤改良工事と建設工事へと進み、**令和８年以降の開業**を目指します。

67ha の規模は、東京ディズニーランドの 51ha、越谷レイクタウンの 34ha を上回る**日本最大級**で、交流人口の大幅な増加と、雇用の創出が見込まれます。

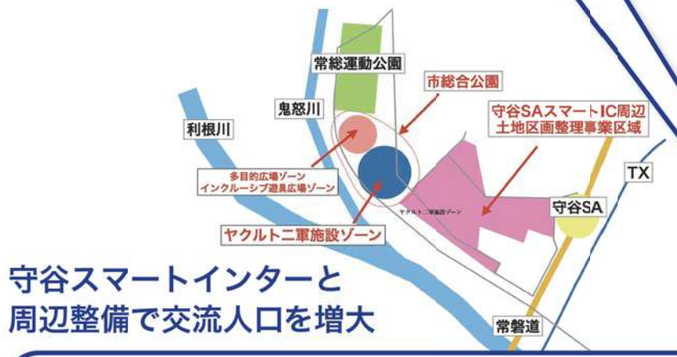
葉梨は、施設完成後の交通渋滞の解消と交流人口をさらに牛久沼方面に回遊させるため、**取手藤代バイパスの４車線化**と**牛久市城中以北の牛久土浦バイパスの早期実現**（令和６年住民説明会実施）に引き続き取り組んでいます。

霞ヶ浦導水事業で湖周辺を観光資源化し、
交流人口と雇用を増大
「霞ヶ浦２橋」も夢でなくなる

昭和 40 年代前半まで遊泳可能だった日本第二の湖沼、霞ヶ浦を再び浄化し、観光資源化することが重要です。昭和 59 年着工の**霞ヶ浦導水事業**は、その完成により、霞ヶ浦と那珂川・利根川の水を循環させ、**水質の劇的浄化が期待**されます。

同事業は、**民主党政権下の平成 24 年に一旦工事が中断、葉梨康弘が法務副大臣として裁判の和解に尽力**、平成 29 年に工事が再開、**令和 12 年の完成後に本格的な通水**が始まり、大きな効果が期待されます。

葉梨が推進してきた**圏央道の４車線化は令和８年に完成**しますが、これにより、**常磐・圏央・東関東道で東京・成田と結ばれるこの地域**に、綺麗な霞ヶ浦や阿見アウトレット、牛久大仏等の観光資源を活用して**インバウンド等を呼び込む**ことにより、交流人口の増大と雇用の創出が期待されます。そして、この構想を実現させれば、地域の再生は勿論のこと、**霞ヶ浦西岸と茨城空港を結ぶ「霞ヶ浦２橋」**の事業化も、決して夢ではありません。



守谷スマートインターと
周辺整備で交流人口を増大

守谷ＳＡを活用したスマートインターの令和 12 年開通に向け、**葉梨康弘**が国交省に要請、**令和５年、調査が始まりました**。周辺道路の整備や区画整理事業により、取手方面から常磐道へのアクセス改善も期待できます。

守谷ＳＡ周辺のアサヒ、明治等の基幹工場、ヤクルト球団が立地する公園や区画整理事業予定地が浸水地域に当たるため、市当局等と粘り強い要請活動を行い、**令和６年、鬼怒川堤防強化事業と都市公園整備事業**が始まりました。

これにより、さらなる交流人口増も見込まれます。

利根川、鬼怒川、小貝川の治水対策で
水害から住民を守る

治水機能の向上は、茨城県南にとって重要な課題で、**葉梨康弘**は、定期的に**国交省と協議**を重ねています。用地買収等の困難のあった取手・守谷にまたがる**稲戸井遊水池は、令和 18 年の完成**見込みで、千葉県側の**田中遊水池の治水容量の大幅増**の事業も、**令和５年**に着手されました。（洪水時に東京の多摩湖に匹敵する貯水が可能に）これにより、利根川下流左岸地域も含めた安心・安全の確保が図られますが、これに加えて、**龍ケ崎、利根、河内、稲敷の４市町と葉梨も加わった協議会**を組織し、治水機能の向上に努めています。

多様な作付けが可能となる土地改良を推進
特定外来生物対策にも尽力

主食用米の需要が低迷する一方、日本の食料自給率は低く、農業従事者も減少しています。**葉梨康弘**は、農地政策ＰＴの中で排水の整備等**土地改良を推進**し、水田で多様な作物の耕作を可能にするとともに、**農林副大臣**として**令和３年**、スマート農業等を進める**「みどりの食料システム戦略」を策定**、県南地域の持続可能な農業の確立に努めています。

また、地域に繁茂する**特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」**は、農地、水路、河川、生態系への悪影響が懸念されるため、関係市町村との協議会を設置し、国・県とともに対策に取り組んでいます。

飼料用米を提唱し米価を安定へ
新規就農への支援で人口の社会減に歯止めを

茨城県南の南部地区は、日本有数のコメ単作地帯で、排水が悪く、畑作物への転作には不向きです。**葉梨康弘**は、**平成 20 年、食料安全保障確保のため、党内で初めて**、イネ科の転作作物である**飼料用米増産を主張**、同年の補正予算で措置したほか、平成 25 年に予算を拡充しました。**農林副大臣だった令和３年**には、米価下落が予想されたため、飼料用米のさらなる増産により主食用米の需給を引き締め、**その後の米価安定**に力を尽くしました。これからも持続可能な水田活用策を構築し、農家の安心の確保に努めます。

また、大規模な担い手のみでは、農村の就業機会が増えないことから、**令和４年予算で、高収益作物に取り組む新規就農者への支援を強化**し、農村の活力強化に努めています。

自民党　自由民主党茨城県第三選挙区支部ニュース　発行：自由民主党茨城県第三選挙区支部　住所　〒302-0017　取手市桑原 1108　Tel 0297－74－1859　詳しい活動は葉梨康弘のホームページをご覧下さい　https://www.hanashiyasuhiro.com/　討議資料